

のり子の読者ニュース  
 奥村のり子 県会議員  
 赤旗



2014年3月23日 第123号  
 —奥村のり子生活相談所—  
 〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11  
 ☎ & FAX 073-427-7121  
 Eメール w:jcpken@naxnet.or.jp

社会保障削減や大型公共事業推進…  
 新年度予算案に反対

3月14日、共産党県議団を代表して新年度予算案の反対討論に立ちました。その理由の主なものをいくつかを紹介します。

新年度予算の最大の特徴は、消費税増税と本格的な社会保障改悪が始まる予算となっています。消費税増税は、国民への8兆円もの大増税であり、特に低所得者に大きな打撃を与えるものです。県予算でも、地方消費税の増収18億円のうち、社会保障の拡充にあてられるのは8.5億円です。国民健康保険料引き下げのための県からの支援は増やされず、後期高齢者医療保険料は引き上げとなりました。

また、子育て世代の強い要望である子どもの医療費無料化の拡充はなく、介護保険制度

は、要支援者の訪問介護や通所介護を介護給付から外す国の改悪をそのまま受け入れられているのは問題です。

教育の分野では、高校授業料無償化やめて所得制限を導入し、授業料徴収で増える県民負担は1億6000万円に対し、給付制奨学金の予算は5千万円にすぎません。学年進行で進めてきた少人数学級の推進・学級数改善は見送られました。また、国に加えて県独自の学力テストが毎年おこなわれようとしていることにも賛成できません。

公共事業関係では、必要な道路整備をすめていくことは当然ですが、道路の新設などに約365億円に対し、緊急の課題である道路の老朽化対策や橋梁の耐震化、沿岸部の地震・津波対策の費用は71億円ですさらに充実が求められます。

また、国土強靱化の名のもと、凍結されていた紀淡海峡ルートをすすめるための広報活動費などが盛り込まれています。今後の県負担などを考えれば推進すべきではないと考えます。他にも反対理由があり、新年度予算には県民の願いに反することが多く反対しました。(写真は反対討論する奥村のり子です)



「慰安婦」問題で歴史の偽造許さず  
 光る志位和夫委員長の「見解」

3月15日付「日刊赤旗」で「河野談話」と「日本軍『慰安婦』問題の真実」と題する、志位和夫委員長の「見解」が掲載された。国会で維新の会が「慰安婦を強制連行した証拠はない。『河野談話』を見直せ」と攻撃。菅義偉官房長官は「検証する」と答弁。

志位委員長は、1993年8月の河野洋平官房長官の「談話」に至る間、政府による元慰安婦からの直接聞き取り調査や、加害国・日本の裁判記録など幾多の出典を丹念に調べ、朝鮮半島や中国などの女性たちに性奴隷制を強制し、筆舌につくし難い辛苦を与えた事を認めた「河野談話」は公正・正当だったと評価。

「見解」は、「軍が関与した日本側の公文書がない」との攻撃に、「明白な犯罪行為を指示する公文書など作成するはずがない」と。元慰安婦16人の聞き取り調査の信憑性や、日本の裁判で8件35人の一人ひとりについて詳細な事実認定がされ、なかでも8人の「強制的に連行された」事例を紹介、日本軍の「強制性」を明らかにした。他にも慰安婦の強制連行を示す外国の2つの公文書など「河野談話」の真实性を裏付ける数々の証拠を示し、「証拠はない」と歴史を偽造する勢力を完璧に打ち砕く圧巻の内容だ。本来、政府が反論すべきだが安倍首相にその気はなく、志位さんの画期的な「見解」が光る。共産党中央のホームページの「見解」全文や動画は必見ものです。(編集室)

のり子の週間日誌 (主なもの)

- 3月20日 市駅前宣伝 無料生活相談 民医連 後援会つどい
- 21日 議員候補者会議、西協統一行動
- 22日 河西後援会宣伝行動 憲法学習
- 23日 日本文化ふれあいデー
- 24日 選挙対策会議
- 25日 県議団会議
- 26日 河西デイボランティア

バトンの引継ぎ必ず

はじめまして、来年のいつせいで方選挙で市会議員へ立候補を決定いたしました坂口多美子と申します。長い間地域の方々に信頼され、素晴らしい実績をもつ渡辺市議からのバトンを引き継ぐこととなります。地域の方々の思いの詰まったこの大切なバトンをしっかりと引き継ぐことができるよう力いっぱいがんばります。

私は17年間看護師として働いてきました。私が働いてきた和歌山生協病院は、いのちの平等をかかげ地域の人々と共に歩んできた医療機関です。私はこの理念に共感し自分なりに真摯に患者さんに向き合ってきました。でも、どれだけ懸命に医療・看護を行っても医療改悪がどんどん進むなかでどう

本当にいのちを守るには政治を変えなければと決意

しようもない現実には直面することもありました。病院にかかりたくてもかかれぬ方が、状態が悪くなつてから運ばれてくるということが度々あり何度も胸が痛む思いをしました。本当に安心して変えなければいけない、そう思い続けて働いてきました。

社会保障を切り捨てる今の政治の流れには本当に怒りを感じます。一人一人のいのちが大切にされ、安心して暮らし続けることができる、そんな和歌山市にするために一年後の選挙戦「必ず勝利」をめざして強い気持ちでがんばります。どうかよろしくお願いたします。(右の写真は「看護師を増やして」と署名運動する坂口です)



党市医療・福祉  
 対策部長

坂口 多美子

